

研究分野解説

平野大昌

(2019年3月31日現在)

■ 研究分野

私は労働経済学を専門としています。労働経済学は労働市場における諸問題について、その原因や解決策を経済学の考え方をを用いて分析します。たとえば、失業率が高くなる要因を分析したり、教育が将来の賃金にどのように影響を与えるのかを分析したりします。労働に関するトピックであれば、労働経済学の範疇に含めることができるので、その取り扱う範囲は広いと言えます。労働経済学における分析の方法としては、数理モデルを構築する理論分析や統計データを用いた実証分析などがあります。

■ 研究内容

私は実証分析を用いて研究を行っています。また、実証分析では計量経済学の手法を用いています。そのため、労働経済学に加え、応用経理用経済学も専門の一つとしています。

現在進行中の研究の一つとして、従業員の多様性と企業の生産性に関する研究があります。これまで持っていなかった知識や考えに触れることは、新たなアイデアが生まれるきっかけになります。さらに、異なる知識や考えを持つ人が多いほど、知識共有の機会が増えるため、新たなアイデアが生まれる可能性が高くなると考えられます。そのような新たなアイデアが企業の製品開発等につながるのであれば、従業員の多様性は企業の生産性向上につながる可能性があります。そこで、企業データを分析することによって、多様性が企業の生産性に影響を与えるのかを明らかにしようと試みています。

■ 大学院の授業について

「労使関係論」という講義を担当しています。この講義では労働経済学の数理的な理論を主に学びます。たとえば、労働の需要と供給、賃金決定、失業、教育などのトピックスを取り上げ、それらが理論的にどのように説明できるのかを学びます。さらには、その理論を基に現実の労働問題をどのようにとらえることができるのかを考えます。他方、「演習」では労働関連の学術論文を読むことにより、最新の労働経済理論を学ぶことと実証研究のための統計手法に関する知識を身に着けることを目的としています。上述のように私の研究方法は実証分析であるので、自身の研究で実証分析を行おうとする学生向けになっています。